

おひなさま

大正2年 文：巖谷小波 画：岡野栄 中西屋書店刊

『お伽手工画噺』シリーズの1冊。このシリーズは、それぞれの主題にちなむ折り紙などの工芸品が付け加えられた美しい装本で販売された。

画を描いた岡野栄は、東京美術学校西洋画科で学んだ後、黒田精輝に師事した。

文を書いた巖谷小波は、明治24年に博文館より『こがね丸』を出版し一躍注目される。その後、『少年世界』（博文館）の主筆となり、毎号その巻頭に作品を発表した。

『おひなさま』はお雛様を買ってもらえない貧しい娘がお雛様を手に入れるまでのお話。

孝子画噺 養老の巻

大正3年 文：内海月杖 画：倉田白羊 中西屋書店刊

孝子画噺 [白菊の巻]

大正3年 文：内海月杖 画：倉田白羊 中西屋書店刊

洋装本で、袋綴、枠付きの木版画を装飾的に描いた絵本。洋画家倉田白羊の木版画は、江戸時代の孝子絵伝の類に似せた作りでありながら、オリジナリティを感じさせる。

内容は、世界の有名人の孝行噺を集めたもの。神武天皇、吉田松陰、エドワード一世と幅広い。

お伽の囃しとお伽の唄

大正6年 文：薄田泣菫 画：名越国三郎 富山房刊

すすきた きゆうきん

大阪毎日新聞の子供欄に連載されていたお伽噺から100篇と、著者の薄田泣菫が長女のために作ったお伽唄32篇をとりまとめたもの。お伽噺は、東西の古いお伽噺もあれば、泣菫による創作もある。

お話はそれぞれ6つの段落にわかれて書かれており、名越国三郎の挿絵も、文に合わせてコミックのようなコマ割りになっている。

お伽草紙 ポンチ之巻

大正7年 文：巖谷小波 画：川端龍子 お伽研究会刊

お伽草紙 動物之巻

大正7年 作：巖谷小波 画：竹久夢二 お伽研究会刊

当時随一の人気挿絵画家、川端龍子と竹久夢二が画を手掛けたシリーズ。枳形本に近い変形の薄い絵本で、絵双紙的なデザインで描かれている。

『ポンチの巻』はいたずら坊主の凸坊が様々ないたずらをする話で、『動物の巻』はいろいろな動物たちの短いお話。



復古繪本繪ばなし集

ほろ出版

大正期1